台湾大手電機メーカー「東元電機」

仙台に研究事務所

20日開設　東北大支援で製品開発

台湾の大手電機メーカー「東元電機」は二十日、研究部門として「TECO仙台事務所（仮称）」を仙台市青葉区一番町二丁目に開く。同社が日本に研究関連施設を置くのは初めてで、共同研究協定を結ぶNPO法人「科学協力学際センター」（理事長・川添良幸東北大金属材料研究所教授）の支援を受け、開設にこぎつけた。研究員を常駐させ、東北大との共同研究の足場として活用する。

事務所は学際センターが入居するオフィスビルに入る。学際センターと東北大産学官連携推進本部の協力を得て、製品開発につながる研究シーズ（種）を探る。

本年度は材料科学など五つの研究テーマを見つけ、来年度から共同研究に入る意向だ。東北大との連携が順調に進めば、研究所の設置も検討する。

二十日は、台湾の経済団体「中華民国工商協進会」理事長の黄茂雄・東元グループ会長、村井嘉浩宮城県知事、庄子哲雄東北大産学官連携推進本部長らを招き、開所式を行う。

学際センターの川添理事長は「いろいろな国の研究者を指導して育成するのも大学の使命の一つ。新事業や新製品の開発に結び付け社会貢献したい」と話す。

東元電機は液晶テレビなどの家電や電子部品を生産し、発電所も建設する台湾の代表的な総合電機メーカー。グループでは情報システム、金融投資など多分野にわたり、全世界で事業を展開している。

学際センターは産学官連携での産業創出、技術開発の支援を目的に、東北大教授らが中心となり二〇〇三年に設立した。